



発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0021

TEL 093(201)0680 FAX(201)7354

第285号

主の平和とは

1月に古賀教会のジュード神父の故郷のスリランカに行きました。神父とは数年前から教区の活動で知り合いました、そして帰郷する時にスリランカに連れて行って欲しいと頼んでいました。その頃のスリランカは民族紛争が続いていましたが、2年前に紛争が終わりました。11月下旬にお誘いの電話がありましたので私は喜んで行くことにしました。

この国の民族紛争は、先住民族のシンハラ人とインドから南下してきたタミル人との争いです。スリランカの歴史を見ると1000年以上続いています。

この国は九州より少し大きいのですが、人口は1900万人で70%が仏教、20%がキリスト教です。キリスト教徒が300万人以上いるのです。ハーン神父やジュード神父が所属しているオブレート会は1847年にスリランカに入っています。明治維新より前です。2000年以上の歴史ある仏教国であるスリランカに、キリスト教も立派に根付いています。

ジュード神父の実家から50mの所にある教会の主日のミサには驚かされました。ミサの先読みから朗読まで全て中学生がしていました。朝6時半のミサなのに子どもたちが300名くらい来ていました。ミサ後の教会学校はたくさんのグループに分かれ、広い敷地の木陰などで行われています。ミサの参加者は1000名近い人たちでした。

スリランカでは、キリスト教徒の町になると、街角に聖人像があり、仏教徒の町になると街角に仏像があります。

夕方に到着したセイロン茶の産地の中心都市は1800mの高地でした。町に入るとイエズス会のサン・フランシスコ教会からミサの鐘が鳴り、その後にモスクのアサーン(祈りへの誘いのコーラン)の音が聞こえ、その先に行くとき大きなお寺から読経の音が聞こえました。

どの宗教もお互いが争うのではなく、街中に溶け込み共存しているのです。

今回の旅で非常に驚いたことがあります。それはこの国の人たちの表情が穏やかなことです。二年前まで長い戦いがあったことが嘘のように見えます。

スリランカでは世界遺産をたくさん見ました。2000年以上前から仏教国なので、ほとんどが仏教遺跡でした。ところが、ここにある仏陀の顔の優しい顔には引き込まれるものがありました。この国の人たちの優しい心が仏陀の顔に表れているのでしょう。ネパールやチベットでは見たことが無いやさしい顔でした。

どのような信仰もお互いに理解し共存することこそ主が望まれる平和なのでしょうか。(岩本 光弘)

今モーセの十戒を読み直す・・・	2面
子ども達のページ・・・	3面
委員会報告・・・	4面
典礼委員会議事録・・・	5面
レプトン会・ペルーからの手紙	6・7面
教会学校のページ・・・	7面
おしらせ・小グループ紹介・・・	8面

「今、モーセの十戒を読み直す」No.10

さいたま教区長 谷 大二司教

第六戒

「姦淫してはならない」。ボクはやってないから大丈夫という問題ではないですね。秩父事件というのが明治の初期にありました。共和国をつくるという運動があったんです。そのとき軍隊をつかって軍律というのができます。その第二条に「女色ヲ犯ス者ハ斬(きる)」と書いてありますけど、戦争とか軍隊の下では絶えず性的な略奪といった問題が起こります。沖縄でも、散々起こっています。

姦淫してはならないということの一番根本の命題は、男女平等にあるという風に考えなければいけないと思います。男尊女卑の社会の中で姦淫が起こる。聖書の中にある姦淫に関する記述も男女差別を前提にして書かれているようなものです。姦淫してはならないということから、ちょっと飛躍しますけれども、根本命題は男女平等にあるという風に考える必要があると思います。儒教や封建社会の精神的な支柱は、先ほども述べたように上意下達、それから男尊女卑です。

エジプトでは女性の地位が高かったのです。ファラオ(の後継者)が決まるときは、前のファラオの長女の夫がファラオになるという女系家族です。

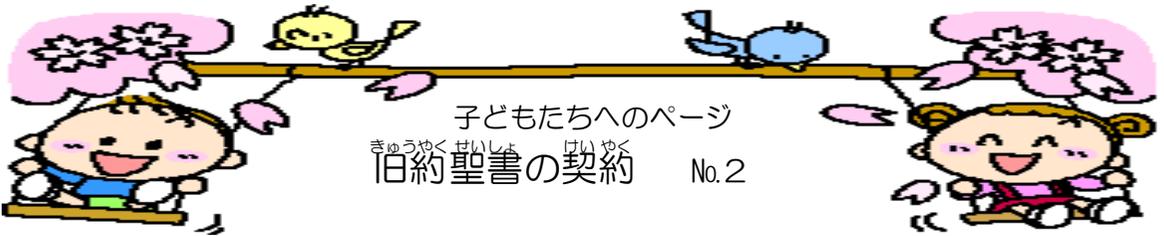
ただそういう、女性が尊重されていたのは貴族の社会だけであって、平民とか奴隷の中では男尊女卑のシステムが働いていた訳です。

イスラエルの民族の中でも男尊女卑という考え方があり、いまの日本の教会の中にもありますよね。いつもこの男尊女卑というのが、システムを作っていくときの要として働いていた訳です。

封建社会の中でもこの男尊女卑というのが抑圧・支配のシステムを永続的に存続させるための大きな道具となってきました。そこに姦淫とか人身取引といったことが起こっています。

共同体の中に男尊女卑の考え方、あるいはシステムがなくならなければ、抑圧のピラミッド・システムはずっと残ってしまいます。こういうことを考える必要があると思います。男尊女卑をなくしていく、男女平等になるという考え方は社会のシステムを変えていくということでもあります。だから女性解放というのは単なる女性の解放ではなくて社会の抑圧システム、それからの解放なんだという風に考える必要があります。(次号へ続く)





子どもたちへのページ
 旧約聖書の契約 No.2

ノアの次に神様が契約した人はアブラハムでした。

アブラハムは今のイラクという国にあったウルという町に住んでいました。アブラハムは家族や牛や羊を連れ、神様が導くままに旅に出ました。そしてアブラハムは、カナンの地に着きました。

ウルという町は、世界四大文明の1つのメソポタミア文明の中心の町の1つでした。今も大きな町の遺跡が残っています。

世界四大文明は、どこにあったか知っていますか。今の国の名前と言うと、中国の北のほう、インド、イラク、エジプトです。

アブラハムの凄いのは、神様が言われることに従って、大都会からどんなところかも分からない田舎に行ったことです。神様が言われたからといって知らない田舎に行くひとがいるでしょうか。アブラハムは素直に従ったのです。

カナンの地でアブラハムに神の言葉がありました。創世記15章と17章に書いてあります。神様はアブラハムに、空の

星のように地の砂のように、あなたの子孫と土地を与えると約束しました。

3番目に神様が契約したのはモーセでした。

アブラハムの孫の時代にカナンの地は食べ物に困るようになり、一族はカナンの南にある四大文明の地であるエジプトに行きました。

それから数百年が過ぎました。イスラエルの民はエジプトで奴隷になっていました。そこで民は神様に助けてくださいと叫びました。

神様はモーセに民を連れてエジプトを出るようにしました。このときに起こったことは来月号に書きますが、イスラエルの民がエジプトを出てカナンの地へ旅をしていたとき、神様はモーセを通じて大切な契約をします。

それはモーセがシナイ山に登って祈ったとき、神様はモーセに「主の十戒」を二枚の石板に刻んで与えられました。

この契約は、神様とイスラエルの民の契約で一番大切なものとなり、信仰の中心の律法となりました。

委員会等報告

2011年2月分

2月度小教区委員会

2月6日

1、前委員会の議事録確認

- ・降誕祭の反省 食事・容器が不足していた
100×2 →150×2は必要。
- ・子どものお菓子の準備 50以上 来年度から教会委員会で準備を確認
- ・役員改選は1月23日～2月6日まで立候補を受け付ける。
受付は竹森神父と馬込委員長
- ・古郡神学生送別会 茶話会で、50～60名参加。記念品はボールペン等。
冠婚葬祭グループから、ちらし寿司の材料費、サンドイッチの差し入れ。コーヒーメーカー 小笠原さんから。

2、先月の行事報告

- ・1月1日、元旦ミサ、車の祝別；1月9日、クリスマス飾り片付け(馬小屋の台は、簡単に取り付け可の様に変更すべき)、小教区委員会
- ・1月16日、聖歌研修会(深堀先生)50名程度参加；
- ・1月29日、レプトン会黙想会(イエズス会 下関、田丸篤神父)20名程度参加

3、議題

*信徒総会 5月8日；会計の報告は3月末に可能。

*地区集会 3月13日 折尾、中間、吉田
3月20日、赤間、芦屋、梅の木、
3月27日、高須、海老津、遠賀。内容は特定しないが、教会への意見、地区代表者(2年任期の改選の年)、連絡網。

*2011年役員改選(小教区委員長選定)

- ・立候補者：川島氏と岡部氏が紹介された。
- ・話し合いの結果、選挙手続きについて次の結論となった。

司祭は2名それぞれと話し合い、小教区委員長となった場合の教会運営等の考え方を聞く。ついで、2月26日(土)、2月27日(日)2名について投票を行い、同日、馬込小教区委員長(他)が開票する。3月6日の小教区委員会で確認する。

上記の結論に至るまで次の様な議論が約1時間以上行われた。

司祭の意向を中心とするか、選挙をするか、会議出席者が意見を出し合った。これを馬込小教区委員長がまとめ、まず「信者全員の選挙を取り入れる。司祭は立候補者と話す機会を持つ。」とほぼ結論された。なお立候補者の意見、会長になった際の方針を演説、あるいは掲示等行うことが出席者2～3名から要請されたが、取り下げとなった。一方、司祭との話し合いでは、司祭、馬込小教区委員長、2名の立候補者、4名揃っての話し合いも提案されたが、司祭と1名単独の話し合いが2回持たれることとなった。

4、各委員会から

北九州地区信徒協会長に行橋教会の追立(おいたて)氏が選ばれた。

5、これからの予定

- ・3月9日(水)灰の水曜日、3月11日(日)司祭叙階式：2名叙階、大名教会

2010年度 第9回 典礼委員会議事録

開催日時：2011年2月9日(水) 19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、柴田香菜、樽角務、樽角司、松尾定、安永仙、矢田

《報告事項》

- 1 典礼聖歌研修会(1月16日指導：深堀純氏)午前約50名、午後10名参加
「からしだね」2月号に報告を掲載
- 2 冠婚葬祭の会予算から、古郡神学生送別会に7,466円支出、レプトン会に3万円寄付
- 3 北九州信徒協典礼部会(1月30日小倉教会)
 - ・昨年11月の司教様典礼研修会についての反省
 - ・小教区でも典礼についての読書など研修し、分かち合いをする
 - ・小教区の典礼委員会活動について情報交換を出席確認に替えて行う
 - ・年に一回は小教区主任司祭を交えた典礼部会を提案
- 4 新委員 樽角 務さん、司さん夫妻
《審議事項》
- 1 ミサでの信仰宣言を使徒信条に(深堀氏より指摘、他小教区では使徒信条を使用)
水巻では、3月末「アベマリアの祈り」決定を待って採用
- 2 灰の水曜日 3月9日(水)灰の式とミサ：午前10時と午後7時半の2回
(昨年の枝回収を2/20、27、3/6、の3日曜日に実施。司会者が連絡)
年の黙想会・共同回心式 4月2(土)、3(日)指導司祭：染野治雄神父
- 3 3月の聖歌予定表。4月(聖週間を含む)予定表は3月の委員会に提出
- 4 来年度の典礼委員会
 - ・構成：神父様、ミサ司会者、冠婚葬祭の会、侍者の会、詩編を唱う会(オルガン奏者を含む)、教会学校関係者(クリスマス前、復活祭前など必要に応じて参加を依頼する。代表者に議題を送付)
 - ・委員長の選任について、小教区委員長選任後に審議する。
 - ・「黙想の家で祈り語りあう集い」の予定：5月15日(日)来住神父
 - ・クリスマス冊子の更新は、新年度出来るだけ早く着手する。
- 5 オルガン奏者:子どものミサを担当していた上坂氏に重ねて依頼してみる。新奏者の開拓。
- 6 その他
 - ・復活徹夜祭で大人の洗礼式 2名(詳細は次回)
 - ・教区より聖体奉仕者の候補の募集・申し込み(安永氏は更新)
 - ・北九州信徒協議会と司祭団の意思疎通について
行事の見直し(運動会、平和の集い、研修会など)
 - ・11月23日〔祭日〕福岡教区の日 福岡カテドラル〔詳細は後日〕

「イエスは天の父を教えた、天の父の心を教えた」

レプトン会1日黙想会の報告 2011年1月29日(土) 参加者15名

指導は田丸篤神父(下関長府教会主任、イエズス会)で、なんと絵本の読み聞かせの黙想会でした。ロシアの昔話『ハリネズミと金貨』の始まりです。森の中で年老いたハリネズミのおじいさんが一枚の金貨を拾います、これで干しキノコを買おうと喜ぶのですが「キノコならあげるよ、そのお金はもっと大事なものに使いな」とリスさん、出合った思いやり溢れる動物たちのおかげですっかり冬ごもりの支度が整いました、そこで金貨を道ばたに戻して言うのです「だれかの役にたつかもしれんな!」。ロシアの諺に「100ルーブルより100人の友をもて」という言葉があるそうです。世の中が進んで行くほどお金第一になるようですが、「無理しないで自分の得意なものを出し合う」分かち合いこそ大切です。互いに助け合う生き方、互いを受け入れ合う心が天の父の心「わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。」(ヨハネ15章11節)です。

『くつやのまるちゃん』(トルストイ、ロシア)からは「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ25章40節)と結びつけ、マザーテレサはこの言葉に忠実であったと紹介。イエスが望んでおられることは難しいことではありません、「私たちがやさしい気持ちを持ち、やさしさを人々に示していく」それで良いのです。私たちの信仰はイエスと心がふれ合うこと、イエスに「一緒にいて心にその手で触れてください」と祈りましょう。 報告者 レプトン会世話人 岩本ナセ(遠賀地区)

.....

**(ペルーからの手紙) 水巻教会・レプトン会の皆様へ
もっと貧しい地区へ移転の報告**

いかがお過ごしでいらっしゃいますか?

新しい年も、はや1ヶ月が過ぎようとしています。1月といってもペルーは夏。日本は冬の季節ですね。この小さな便りを、聖霊の息吹を受けられて、神の母になられたマリア様に託して祈りの中にお届けします。

レプトン会の皆様には、バザーや他のいろいろな方法で長い期間にわたって、私たちの宣教活動に心を止めていただき、愛の献金を通して、たくさんご協力頂きましたことを感謝しています。お蔭様で、幼子達は今、大きく成長して、学校で、教会で、それぞれの分野で、彼等なりに頑張っていて活躍しています。ありがとうございました。

この1月より、私たちは、サン・ファン・デ・ミラフローレス区パンプロナ・アルタよりもっと貧しい、新しい場所へ引っ越しました。いつも貧しい人々を優先して、幸いな福音を告げられたキリストに倣い、貧困から少々自立出来た人々を後にして、神の限りない計らいに信頼して、新天地での出発です。

移転先のピヤ・マリア・デル・トゥリウンフォ区 サン・ガブリエルでは、日本大使館から



教会学校のページ



2月13日

1・2年生

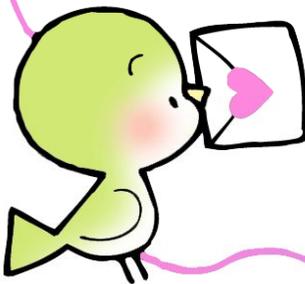
今日の聖書マタイ5章17～37節。その中の 21～24節の
「あなたが祭壇に供え物を献げようとして・・・まず行って仲直りをし、
それから供え物を献げなさい・・・」を、みんなで読んで話し合いました。

- 自分がけんかした友だちと仲直りするにはどうすればいいかな。
- 自分だったらどうするか考えたことをノートに書きました。

3～6年生

四旬節について、勉強しました。

- まもなく、四旬節が始まるので、自分ができること
(おてつだいをする、お祈りをする等)を考えました。
- マタイ6章1～6節、16～18節を読みました。



(6ページから続き)

の援助金をもとに、カリタスパーラーが建築を請け負って、傾斜で砂地の荒地に子供たちの遊び場と保育園を建設するために頑張っていますが、基礎工事が困難で経費の不足も重なりなかなか進みません。それでも、今年の3月からは古い聖堂を使用して、新学期を始めようと計画し、現在は地域の家庭を訪問して歩いています。この地域には5歳未満の子供たちが800人ほどいるそうです。貧しい共働きの家庭を支援するために、この地域でも、朝から夕方まで子供たちの面倒を見ることができれば…。そのために、ここでも子供食堂を開くことを考えています。どうぞ、今後とも皆様のお祈りとご協力をお願い申し上げます。

一つひとつの愛の献金は、皆様方の隠れた犠牲の賜物、寛大な心の溢れです。この貴重な宝を、小さな命、乳幼児のより良い心身の成長の為に使用させて頂きます。

天の栄光から貧しい馬小屋に下られて、私たちに永遠の命を与え、私たちと共に生きるためにお生まれになられた主イエス様が、皆様、お一人おひとりを豊かな祝福で満たし、いつも同伴して下さいます様に心からお祈りいたします。感謝のうちに・・・

2011年1月30日 イエスのカリタス修道女会 リマの聖女ローザ準管区ペルー共同体
管区長 シスターテレジア川端キヌ又

